

天沼小だより

文責

校長 大里 忠弘



給食の調理場が新しくなりました



桐生市の学校給食を提供している中央共同調理場は1969年建設ということで、老朽化が懸念されていましたが、相生町の旧市清掃管理事務所跡地に新規移設され、この2学期から運用が開始されました。

新しい食缶は、二重構造の保温性の高いもので、スープ類も温かい状態で提供されます。プレート、食器も新調され、毎日の給食が一段と美味しく感じます。プレートには桐生市のマスコット「キノピー」がプリントされています。

余談ですが、学校給食の人気メニューの一つ、「ABCスープ」は桐生市が発祥との話題が、給食委員会による校内放送で紹介されていました。保護者の皆様の思い出の給食メニューはどんなものだったのでしょうか。お子さんとの会話の話題にしてみてもいいかもしれません。

少し残念なのは、給食の時間、おしゃべりを楽しむことができません。早く、コロナの不安がなくなることを願ってやみません。



プール学習の安全を感謝しました

9月3日(金)、プール納めを校内放送で行い、校長から子どもたちに話をしました。

新型コロナ感染症の影響で、いろいろな活動ができない中、夏のプール学習も取りやめてしまった地区もありました。天沼小学校では、先生たちがプール掃除をし、毎日の水質検査、水をきれいにする機械の操作、いろいろな準備をしてくださり、水泳学習をすることができました。

児童の皆さんも、感染予防のための約束を守ってくれたお陰で、無事、安全に水泳学習を終えることができました。たっぷり思い切り泳いだというほどではありませんでしたが、今年、天沼小学校のプールを開くことを素直に感謝します。

水泳の好きな人にとっては、嬉しいことだったと思います。水泳があまり得意でない人にとっては、とても大切な挑戦の機会になりました。

好きなこと、得意なことをやり続けて、もっと上手になろう、もっと強くなろうとすることは大切なことです。向上心といいます。強い向上心を持ち続けた人が、この夏のオリンピックやパラリンピックなどで活躍した人たちです。

桐生市水泳記録会に出場した選手も皆さんも、特別練習に通い、市民プールの大きな50メートルプールで記録に挑戦してきました。見事入賞した人は素敵な思い出をつくることができました。入賞できなかった人も、大切な経験をすることができました。せっかく特別練習に通ったのに、当日の記録会に出ることができなかった人もいました。

勝負には必ず勝ちと負けがあります。「勝負には勝たないと意味がない」などと言われることがありますが、私は、そんなことはないと思っています。

勝った人が、多くの人に支えられていることを忘れ、自分の力だけで勝てたと思ってしまえば悲しいことになります。勝負してくれた相手のことを大切に思えなければこれも悲しいことになります。

勝負に負けても、勝つために準備してきたこと、努力してきたことの意味をしっかりと考え、一緒に力になってくれた人たちのことを思う気持ちを大切にできれば、次の一步を踏み出す勇気と自信を手に入れることができます。

得意なこと、好きなこと、やりたいことだけをする生活では、私たちの生活は豊かになりません。ちょっと苦手なことにも、挑戦してみることで新しいものの見方に気づくことができます。そして新しい発見や感動に出会うチャンスが広がるのです。

あなたの得意なこと、好きなこと、やりたいこと、どんなことですか。

逆に、あなたの苦手なこと、嫌いなこと、あまりやりたくないと思うこと、どんなことですか。

想像してみましょう。得意なこと、好きなこと、やりたいことだけをやり続けて大きくなった自分の10年後。

もう一つ想像してみましょう。苦手なこと、嫌いなこと、あまりやりたくないと思うことにも挑戦しながら大きくなった自分の10年後。

未来のあなたを育てるのは、今のあなた自身です。